

第4回
第8期高砂市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会
会議録（議事要旨）

- 1 開催日時 令和2年11月27日（金）10:00～12:00
- 2 開催場所 高砂市役所南庁舎 5階大会議室
- 3 協議事項
 - (1) 第8期事業計画の素案について
 - (2) 第3回策定委員会会議録（議事要旨）について
 - (3) パブリックコメントの実施について
 - (4) その他

4 議事録

事務局	(1) 第8期事業計画の素案について 【「第8期事業計画素案」資料説明】
委員意見	42ページに現状と課題について、「地域福祉推進委員会に対する助成支援をはじめとした「公助」となっていますが、福祉委員の活動は公助にあたるのか。活動自体を公助としているのか、助成金を公助とするのかわかりにくい。
事務局	福祉委員の活動は互助、活動に対する助成支援については公助です。
委員意見	地域共生社会の実現について、66ページの(2)の環境整備に書かれている内容が、もう少し積極的に社会参加というのであればいいと思い、安心して外出できる環境整備というところで、より具体的に記載をしてはどうか。
事務局	66ページと合わせて、69ページの認知症施策の推進、施策について記載している。例えば、早期発見や早期対応の取り組みの充実、認知症バリアフリーの推進、若年性認知症の方への支援、成年後見制度の利用促進などという形で書かせていただき、下に主な施策、特に認知症施策について記載をしている。加えて、チームオレンジの関係での話し合った意見を参考にしながら、様々な施策を進めていきたいと考えている。
委員長意見	バリアフリーについてはどこかに記載があるか。
事務局	「認知症バリアフリーの推進」にて記載している。
委員長意見	例えば認知症サポーターの拡大のところで、そういう、商工会議所と連携してサポーター養成を受けてもらうという工夫はできると思う。運用面で、人数の目標値を達成できれば良いが、他の施策との兼ね合いで書ききれなかったりすることもあるかと思う。
委員意見	認知症カフェの充実という言葉がありますが、認知症カフェの3カ所の満足度って50%と記載があるが、目標としては、充実ではなく増やすということを目標に設定した方がいいと思う。
事務局	検討する。
委員質問	マイ避難カードの作成とか避難行動要支援者個別計画作成の推進につ

	いて、単なる数だけではなく、どのように考えているのか。
事務局	毎年20件ずつ増やすという位置づけで考えている。単位自治会に協力を仰ぎながら、広げていきたい。兵庫県の取り組みの中で一定の研修を受講したケアマネジャーに協力をしていただく際に、計画の作成に対して一部費用を出すという施策がある。そういった条件に関する情報提供をケアマネジャー協会に今後協議していきたいと考えている段階。その中で、もしご協力いただける方がいれば、自治会などにお話をさせていただきたいと思っている。
委員意見	研修が丸一日かかるのでハードル高いという問題が1つと、その存在自体を知らないというケアマネジャーが多い。もちろん報酬が出る話なので、経営者目線で言えばどんどん受けてほしいという雰囲気もあり、反対に一般の職員として働いているケアマネジャーとしては、ぜひ受けて、詳細を知りたいという声もある。どんどん情報発信していただきたい。
委員質問	前回の会議で話した、避難行動要支援者個別計画の作成にあたって個別の自治会だけでなく、例えば婦人会や老人会などみんなで集まりその中にケアマネジャーに同席していただけないか、という件について前回、「検討します」ということでしたが、これについてはどうか。
事務局	第8期の3年間の中で検討する、という方向。現時点では検討できていない。危機管理室などの複数課と協議し、取り組み内容について検討させていただきたい。
委員質問	検討した内容はどのように我々に教えていただけるのか。
事務局	自治会など、集まっていただく機会があれば、その場をお借りしてお話させていただく形になろうかと思う。
委員長意見	災害に関連するところで専門職の方でも個人情報がいぶ共有されにくくなってきているという現状がある。運用上のところでは第三者への情報提供について検討していただき、早急に対応を考えていただきたい。
委員質問	避難行動要支援の個別計画のところの2019年の数字が入ってないが。
事務局	新規の件数という目標設定なので2019年については棒線としている。
委員長意見	示す数値が変わっているということで、その数値が把握できないということ。計画では年間20件増えることで、避難行動が円滑に進むのかどうかという、この妥当性はどうか。
事務局	20件というのは、今までの経緯から言うと、多い数字になっている。
委員質問	福祉避難所について、職員及び協定先事業所の職員への個別という記載であるが、立ち上げたときに、誰がリーダーで、誰が責任者になるのか。
事務局	福祉避難所につきましては、福祉部が担当している。施設にお願いする場合は、責任者は市の福祉部になると思いますが、実際の運営については施設に協力を依頼する形になるかと思う。

委員長意見	手挙げで20件、手を挙げさせるということは恐らく不可能だとなれば、市として20件、どのように把握していくのか、考えていくべき。
委員意見	認知症カフェが、これから行き詰っていくと思うので、様々な自治体の認知症カフェの情報提供をしてもらいたい。県と連携しながらサ高住の整備に努めるとあるが、何かチェックできるような仕組みを考えた方がいいと思う。 福祉避難所として、年に1回は高砂市の訓練に参加させていただいており、連絡はもらっている。備蓄とかそういったものに関して市とは連携をとっているの、これをよりよく回せるようにと考えている。
事務局	サ高住について、兵庫県と連携しながら、一般の介護事業所に行っている指導を検討し、有料老人ホームの集団指導などにも参加し、どのようなことを兵庫県が実施しているか確認はさせていただきたい。未届けの有料老人ホームについても兵庫県と連携しながら届出してもらい、指導の対象に入れて対応していきたいと考えている。
委員長質問	計画の中に、「地域」という言葉と「地域コミュニティ」という言葉が2つ出てくるが何が違うのか。
事務局	整理させていただく。
委員質問	「地域共生社会の実現に向けた取組」の中で、「いわゆる「制度の狭間」の課題を解決するため、複合的な課題を抱える者等に対する包括的な支援システム」という言葉があるがこれはどういうことを指しているのか。
事務局	「制度の狭間」の課題を解決するためというのは、今まで縦割り行政が結構あったということで、横のつながり、連携する必要があるというイメージと思ってもらいたい。
委員意見	それは「包括的支援システム」ではなく「連携」ということになるのでは。第2層協議体というのは、具体的な施策として第2層協議体というモノがあるわけではないようですね。
事務局	計画の中でという第2層協議体とは少し違う形にはなるかと思う。どちらかという市の意識とか資質の話になってくると思っている。
委員長意見	恐らく第2層に関してはその上の方、互助などの活動で生かされてくる場所として位置づけられているのが一般的な解釈。
委員意見	住民から見たときに、ここへ行けば包括的に相談を受けてもらえるというような仕組みを考えていけないといけないのでは。
事務局	新庁舎では、そういった形の相談窓口を1つにしようということを検討している。ただ、そこで全部が解決するかという問題があるが、とりあえず話を聞くところをつくらうという形で進めている。
委員長意見	相談に来て、ここで全部相談を受けますという形のワンストップで調整をしてくれるような機能を発揮してほしいと思う。

事務局	資料編、用語の説明でこの言葉が分かりにくいという意見があれば、連絡いただきたい。
事務局	【第3回策定委員会会議録 議事要旨について 資料説明】 要旨はホームページに公表予定なので、内容について意見があれば高年介護課に連絡いただきたい。
事務局	【パブリックコメントの実施について 資料説明】
委員長質問	素案は実際に市内何カ所で見れるのか。
事務局	ホームページ、市民サービスコーナー、市民コーナー、市の情報公開コーナーに公開予定でご意見が聞けるようにしたいと考えている。 期間としては12月18日ぐらいから1カ月間を予定している。
事務局	【その他】 次回以降の会議日程についての説明。